

## 定住促進フォーラム「田舎暮らしのススメin仙北」



利根川氏

11月21日、定住促進フォーラム「田舎暮らしのススメin仙北」が角館樺細工伝承館で開催され、約70人が参加しました。

第1部として、今年度から進めている3つの重点プロジェクトの概要を説明。空き家情報バンク「えぐきてけだし」などを紹介したほか、仙北市の定住促進事業の一環として10月に実施したスローライフモニターツアーについて映像をまじえて担当職員が説明しました。

第2部は、NPOふるさと回帰支援センター主任研究員の利根川治夫氏を講師に「ふるさと回帰運動の今…」と題した講演会が行われました。

田舎暮らしを希望し同センターを訪れる人は、今年は月平均150人以上で、昨年に比べ1.5倍強に増えたそうですが、秋田県を希望する人は、4月から10月までで60人ほどということです。

利根川氏は、「近年は、団塊世代など田舎暮らしに興味のある希望者が増えている。さらに30～40歳代の人も増えている。アンケート結果では東北地方が人気で、特に定住促進に力を入れ、首都圏に近い福島県の人気が高く、秋田県は遠いというイメージが持たれている。しかし、角館や田沢湖などは地名度が高く、有利な条件もそろっているため、今後のPRによっては成果が期待できる」と話していました。



写真をまじえ空き家情報等を紹介

## 市立角館総合病院 市民公開講座



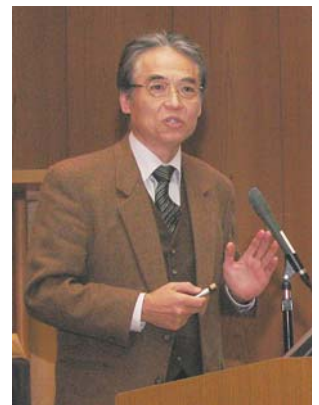
工藤氏

市立角館総合病院が主催する市民公開講座が11月22日、角館樺細工伝承館で開催されました。

昭和大学横浜市北部病院副院長で消化器センター教授の工藤進英氏と国立がんセンターがん予防・検診研究センター検診技術開発部長の斎藤博氏の2氏を講師に、大腸がんについての講演が行われました。

工藤氏は『今、増えている大腸がん』と題し、秋田県が一番、続いて青森県、岩手県など、北東北で大腸がんによる死亡率が高いことについて「大腸がんは高脂肪、高カロリーが原因といわれているが、運動不足も一因ではないか」と話し、自身が秋田で勤めていた頃と、都会で暮らす今では、日常生活で歩く距離が倍も違うという体験などから秋田県人の運動不足を指摘しました。

斎藤氏は『大腸がんを防ぐ決め手は検診です』と題した講演で、「大腸の早期がんは確実に治る。進行したがんでも治る確率が高いがんである。しかし、自覚症状がないので、大腸がん予防には検診が大切」と呼びかけていました。



斎藤氏

## 「常陸太田秋まつり2007」に仙北の物産と飾山囃子 連携交流提携記念

11月24日・25日、茨城県常陸太田市鯨ヶ丘商店街を主会場に「常陸太田秋まつり2007」が開催され、本市から特産品販売と飾山囃子の一行が参加しました。

このイベントは常陸太田市、秋田市、仙北市の連携交流締結等を記念し、産業文化祭、常陸秋そばフェスティバル、市民芸能祭などの秋のイベントを集約し、地元商店街の空き店舗などを活用して開催されたものです。会場は期間中、歩行者天国となり、天候にも恵まれ2日間で5万人の人出で賑わいました。

特産品販売では、準備した諸越などの菓子やいぶりがっこなどの漬物、あきたこまちや椎茸などの農産物がほぼ完売するほどの盛況ぶりでした。飾山囃子の一行は、24日に市民交流センターで開催された市民芸能祭に出演したのを皮切りに、25日には会場の商店街で囃子の演奏と手踊りを披露し、地元市民の盛大な拍手を受けていました。中には公演時間にあわせ何度も見物に来る方もおり、郷土芸能に対する理解の深さを感じました。

市では今回の秋まつり参加を契機に、3市の交流を更に推進させることにしています。



大好評だった飾山囃子